

## タイピング練習③ 英文の日本語訳の違い ~アウトライン機能を使う~

### 1 A MIDSUMMER NIGHT'S DREAM

なつ よる ゆめ  
夏の夜の夢

#### 1.1 If we shadows have offended,

Think but this, and all is mended:

1.1.1 わたくしどもはただの影法師にござりますれば、  
もしもこのお芝居お気に召さぬとあれば、それ、

1.1.2 影にすぎない我らの舞台、  
お気に召さずば、こう思って頂きたい。

1.1.3 われら役者は影法師、  
皆様がたのお目がもし

#### 1.2 That you have but slumbered here

While these visions did appear.

1.2.1 皆さんにはここにてしばしまどろまれたと思し召せ、  
すべては東の間の幻にてござりますれば。

1.2.2 皆様、ここで眠ってたのだと。  
おかしな夢を見たのだと。

1.2.3 お気に召さずばただ夢を  
見たと思ってお許しを。

#### 1.3 And this weak and idle theme,

No more yielding but a dream,

1.3.1 まことにはかなくも頼りなきこの芝居、  
夢の夢なる一場の夢芝居、なにとぞ

1.3.2 取るに足らない、つまらぬ話、  
夢のように、たわいもなし。

1.3.3 つたない芝居ですが、  
夢にすぎないものですが、

#### 1.4 Gentles, do not reprehend;

If you pardon, we will mend.

1.4.1 夢幻とお笑い下さりお見逃しを  
いただけますれば一同ありがとうございます。

1.4.2 どうか皆様、お赦しを  
頂けますれば、喜び、ひとしお。

1.4.3 皆様がたが大目に見、  
おとがめなくば身のはげみ。

#### 1.5 And, as I'm an honest Puck,

If we have unearned luck

1.5.1 わたくしめも正直者のパック、  
このたびのご好意をば身に余るしあわせと心得、

1.5.2 おいらパックは正直者。  
野次や批判は嫌なもの。

1.5.3 私パックは正直者、  
さいわいにして皆様の

### 1.6 Now to 'scape the serpent's tongue,

We will make amends ere long,

1.6.1 一座一同必ずや精進一途、ご贔屓さまのお叱りを  
頂戴するなどゆめあるまじく、このお約束を。

1.6.2 お叱りなくば、こりや幸せ、  
いずれしますよ、埋め合せ。

1.6.3 お叱りなくば私も  
はげみますゆえ、皆様も

### 1.7 Else the Puck a liar call.

So, good night unto you all.

1.7.1 違えましょうならこの身はまさしく嘘八百のパック。  
それでは皆さま、ごきげんようしゅう、

1.7.2 しなきや、嘘つきとおよびください。  
それでは、皆様、おやすみなさい。

1.7.3 見ていてやってくださいまし。  
それでは、おやすみなさいまし。

### 1.8 Give me your hands if we be friends,

And Robin shall reastore amends.

1.8.1 なにとぞ今後の精進をご期待下さり、ささ、  
隅から隅まですいすいお手を拝借、拝借。

1.8.2 ご厚意あらば、拍手をどうぞ。  
そしたらロビンはお礼を言うぞ。

1.8.3 皆様、お手を願います、  
パックがお礼を申します。

※入力モードは、英数キーか半角/全角キーで切り替える。

※2行で1段落になっているので、1行目の最後は

Shift+Enter キー、2行目の最後は Enter キーで改行する

※レベル下げは Tab キー、レベル上げは Shift+Tab キー

## ■ 翻訳者

1 大場建治 2 河合祥一郎（韻を踏んでいる）

3 小田島雄志（七五調で韻を踏んでいる）

## ■ アウトラインの設定

レベル1, 2 左インデント 0mm インデント位置 7mm

レベル3 左インデント1字 インデント位置 3.5字

## ■ 知っておきたい基本知識

<http://shakespeare-w.com/japanese/shakespeare/terms.html>  
[#poem](#)

couplet 二行連句、対句、カプリエット

## 2 HAMLET[3.1]

ハムレット(三幕一場)

2.1 To be, or not to be, that is the question;

2.1.1 存在することの是非、それが問題として突きつけられている。

2.1.2 このままでいいのか、いけないのか、それが問題だ。

2.1.3 生きるべきか、死ぬべきか、それが問題だ。

2.2 Whether 'tis nobler in the mind to suffer

2.2.1 どちらが高潔な人間か、狂暴な運命の

2.2.2 どちらが立派な生き方か、このまま心のうちに

2.2.3 どちらが気高い心にふさわしいのか。

2.3 The slings and arrows of outrageous fortune,

2.3.1 矢玉を心中じっと堪え忍んで生き続けるのと、

2.3.2 暴虐な運命の矢弾をじっと耐え忍ぶことか、

2.3.3 非道な運命の矢弾をじっと耐え忍ぶか、

2.4 Or to take arms against a sea of troubles,

2.4.1 打ち寄せる困難の海に敢然武器を取つて

2.4.2 それとも寄せる怒濤の苦難に敢然と立ちむかい、

2.4.3 それとも怒濤の苦難に斬りかかり、

2.5 And by opposing end them.

2.5.1 立ち上がって一切の決着をつけるのと、

2.5.2 戰ってそれに終止符をうつことか。死ぬ、眠る、

2.5.3 戦って相果てるか。

2.6 No more; and by a sleep to say we end

2.6.1 それだけのことだ。それで、眠ることで、心の痛みも、

2.6.2 それだけだ。眠ることによって終止符は打てる、

2.6.3 それだけだ。眠りによって、心の痛みも、

2.7 The heart-ache and the thousand natural shocks

2.7.1 肉なる者の宿命であるもろもろの苦しみも、すべてに

2.7.2 心の悩みにも、肉体につきまとう

2.7.3 肉体が抱える数限りない苦しみも

2.8 That flesh is heir to, 'tis a consummation

2.8.1 終止符を打つことができるのだとしたら、それこそは望みうる

2.8.2 かずかずの苦しみにも。それこそ願つてもない

2.8.3 終わりを告げる。それこそ願つてもない

2.9 Devoutly to be wished. To die, to sleep;

2.9.1 最高の大団円ではないか。死ぬ、眠る、

2.9.2 終わりではないか。死ぬ、眠る、

2.9.3 最上の結末だ。死ぬ、眠る。

2.10 To sleep, perchance to dream. Ay, there's the rub;

2.10.1 待てよ、眠れば夢を見るかもしれぬ。そうか、そこでつかえるのか。

2.10.2 眠る、おそらくは夢を見る。そこだ、つまずくのは。

2.10.3 眠る、おそらくは夢を見る——そう、そこでひつかかる。

2.11 For in that sleep of death what dreams may come

2.11.1 人間界のわずらわしい桎梏をきっぱり解き放ったあと

2.11.2 この世のわずらいからかろうじてのがれ、

2.11.3 一体、死という眠りの中でどんな夢を見るのか？

2.12 When we have shuffled off this mortal coil,

2.12.1 死の眠りの中でどんな夢を見るか、そこでだれしも

2.12.2 永の眠りにつき、そこでどんな夢を見る？

2.12.3 ようやく人生のしがらみを振り切ったというのに？

2.13 Must give us pause. There's the respect

2.13.1 立ち止まってしまうのか。それでもなければ、だれが

2.13.2 それがあるからためらうのだ、それを思うから

2.13.3 だから、ためらう——そして、苦しい人生を

2.14 That makes calamity of so long life,

2.14.1 これほどまでに長びかせることがある、人生という災難を、

2.14.2 苦しい人生をいつまでも長びかすのだ。

2.14.3 おめおめと生き延びてしまうのだ。さもなければ、

2.15 For who would bear the whips and scorns of time,

2.15.1 だれがいつまでも耐え続けることがある、時代の鞭と嘲りを、

2.15.2 でなければだれががまんするか、世間の鞭うつ非難、

2.15.3 誰が我慢するものか、世間の非難中傷、

2.16 The oppressor's wrong, the proud man's contumely,

2.16.1 権力者の不正を、傲慢の徒の無礼を、

2.16.2 権力者の無法な行為、おごるものの侮蔑、

2.16.3 権力者の不正、高慢な輩の無礼、

2.17 The pangs of disprized love, the law's delay,

2.17.1 さげすまれた恋の痛みを、裁判の遅延を、

2.17.2 さげすまれた恋の痛み、裁判のひきのばし、

2.17.3 失恋の痛手、長引く裁判、

2.18 The insolence of office, and the spurns

2.18.1 役人どもの尊大な態度を、眞に価値ある人がひたすら隠忍、

2.18.2 役人どもの横柄さ、りっぱな人物が くだらぬやつあ手にじっとしのぶ屈辱、

2.18.3 役人の横柄、優れた人物が耐え忍ぶ くだらぬ奴らの言いたい放題、

2.19 That patient merit of the unworthy takes,

2.19.1 自重して下劣な徒輩の足跡を甘受するのはいったいなぜだ、

- 2.19.2 このような重荷をだれががまんするか、この世から  
2.19.3 そんなものに耐えずとも、
- 2.20 When he himself might his quietus make
- 2.20.1 裸の扳身の一閃で安らぎの総決算が  
2.20.2 短剣のただ一突きでのがれることが  
2.20.3 短剣の一突きで
- 2.21 With a bare bodkin? Who would fardels bear,
- 2.21.1 できるといふのに、いったいだれが人生の重荷を  
背負って、  
2.21.2 できるのに。つらい人生を  
2.21.3 人生にけりをつけられるといふのに？ 誰が不満を  
抱え、
- 2.22 To grunt and sweat under a weary life,
- 2.22.1 うめき汗して旅を続けていくことがある、  
2.22.2 うめきながら汗水流して歩むのも、  
2.22.3 汗水たらして、つらい人生という重荷に耐えるものか、
- 2.23 But that the dread of something after death,
- 2.23.1 それもこれもただただ死後への怖れ、その世界はと  
いえば、  
2.23.2 ただ死後にくるものを恐れるためだ。  
2.23.3 死後の世界の恐怖さえなければ。
- 2.24 The undiscovered country, from whose bourn
- 2.24.1 旅人の帰らざる彼岸の  
2.24.2 死後の世界は未知の国だ、  
2.24.3 行けば帰らぬ人となる
- 2.25 No traveler returns, puzzles the will
- 2.25.1 未知の国、だれしもがそこで思い煩い、  
2.25.2 旅立ったものは一人としてもどったためしがない。そ  
れで決心がにぶるのだ、  
2.25.3 黄泉の国——それを恐れて、意思はゆらぎ、
- 2.26 And makes us rather bear those ills we have,
- 2.26.1 この世で憤れ親しんだ苦難の忍耐の方を選び取って  
しまう、  
2.26.2 見も知らぬあの世の苦勞に飛び込むよりは、  
2.26.3 想像もつかぬ苦しみに身を任せるよりは、
- 2.27 Than fly to others that we know not of?
- 2.27.1 得体の知れぬ他国の苦難の中に飛び込むよりも。
- 2.27.2 憤れたこの世のわざらいを我慢しようと思うのだ。  
2.27.3 今の苦しみに耐えるほうがましたと思ってしまう。
- 2.28 Thus conscience does make cowards of us all,
- 2.28.1 こうした思いがわれわれすべてを怯懦に仕立てる、  
2.28.2 このようにもの思う心がわれわれを臆病にする、  
2.28.3 こうして、物思う心は、我々をみな臆病にしてしま  
う。
- 2.29 And thus the native hue of resolution
- 2.29.1 決意本来の血の色が物思いの  
2.29.2 このように決意のもつて生まれた血の色が  
2.29.3 こうして、決意本来の色合いは、
- 2.30 Is sicklied o're with the pale cast of thought,
- 2.30.1 蒼白な病いの色に覆われてしまう。  
2.30.2 分別の病み蒼ざめた塗料にぬりつぶされる、  
2.30.3 蒼ざめた思考の色に染まり、
- 2.31 And enterprises of great pith and moment
- 2.31.1 乾坤一擲の大事業がつい横道にそれで  
2.31.2 そして、生死にかかるほどの大事業も  
2.31.3 崇高で偉大なる企ても、
- 2.32 With this regard their currents turn awry,
- 2.32.1 行動の名を失ってしまうのも  
2.32.2 そのためにつしか進むべき道を失い、  
2.32.3 色褪せて、流れがそれで、
- 2.33 And lose the name of action. Soft you now,
- 2.33.1 つまりはこのためなのだ。ま、待て、  
2.33.2 行動をおこすにいたらず終わる——待て、  
2.33.3 行動という名前を失うのだ。だが、待て。
- 2.34 The fair Ophelia? —Nympy, in thy orisons
- 2.34.1 あれはオフィーリアか？——森の女神、あなたの祈  
りの中に  
2.34.2 美しいオフィーリアだ。おお、森の妖精、その祈りの  
なかに  
2.34.3 美しいオフィーリア！ 妖精よ、君の祈りに
- 2.35 Be all my sins remembered.
- 2.35.1 この身の罪の許しも。  
2.35.2 この身の罪の許しも。  
2.35.3 我が罪の赦しも加えてくれ。

## 参考 他の翻訳者の訳

福田恒存

- 1.1.1 夜の住人、私どもの、とんだり、はねたり、  
もしも皆様、お気に召さぬとあらば、こう思し召せ、
- 1.1.2 ちよいと夏の夜のうたたねに垣間みた夢幻にすぎないと。  
それならお腹も立ちますまい。
- 1.1.3 この狂言、まことにもって、とりとめなしの、  
夢にもひとしき物語、